

## 2 心臓・血管検診クリニックによる一般住民を対象とした循環器疾患コホート研究：ベースライン調査の実績と追跡調査の現状

研究代表者名：中村元行<sup>1</sup>

共同研究者名：田中文隆<sup>1</sup>、高橋智弘<sup>1</sup>、佐藤権裕<sup>1</sup>、瀬川利恵<sup>1</sup>、蒔田真司<sup>1</sup>、肥田頼彦<sup>1</sup>、佐久間雅文<sup>1</sup>、小野田敏行<sup>2</sup>

施設名：岩手医科大学医学部内科学講座循環器腎内分泌分野（旧第二内科）<sup>1</sup>、同 衛生学公衆衛生学講座<sup>2</sup>

### 目的と概要

地域集団における心血管疾患（虚血性心疾患、脳卒中）の発症要因や予測マーカーを明らかにするため2002年から岩手県南地域の東山町（現、一関市東山区）においてJALSプロトコルに基づき一般住民を対象としたコホートを実施している。すでにJALS統合研究のために2002～3年分のベースラインデータを2004年2月に提出した。その後もコホート対象者の追加を行っている。また、エンドポイント追跡のため2年毎に全対象者（死亡例を除く）に対してアンケート調査を実施している。その内容に基づき病院訪問し、カルテ調査を行い、心血管疾患の発症を登録し、JALS本部に報告している。

### ベースラインデータの調査法

岩手県一関市東山町の2001年の40歳以上の人口は男性2451名、女性2773名の計5224名であった。当該地域の性・年代（10歳別）の人口構成割合に準じた地域集団コホートを設けるために40歳以上80歳未満の町民を無作為に選択し、2002年から2003年にかけて文書で当検診研究への参加募集を行った。そのうち同意のあった1057名（同意率60%）を対象としてJALSコホートとした（男性510名、女性547名、平均60+/-10歳）。当該地域の40歳以上の人口の約20%が参加した。検査項目はJALSで要求された基準を満たし、生活・既往などの一般問診、栄養調査および身体活動調査を実施した。さらに、全例で心エコー図検査（Bモード断層およびドップラ法）、脈波伝播速度（ABIフォルム）、高感度CRP濃度、B型ナトリウム利尿ペプチド濃度などの測定も追加実施した。

### 2004年以降の実績と繰り返し調査

2004年以降は表1に示すように新規参加者の追加のほか、繰り返し調査を実施している。2007年までに新規者1432名その内2回以上の繰り返し被検者のべ749件となった。のべの総参加者数は2181名である。

### 追跡調査の実績

発症調査は2年ごとのアンケート調査をもとに行なっている。2005年秋に第一回目調査、2007年冬に第二回目の調査を終了した。アンケート回収率は約95%であった。このアンケート調査結果から発症疑いの45名を対象として地域基幹病院3施設を訪問しカルテ調査を行なった。その結果、表2のように心筋梗塞症4例、虚血性脳卒中13例、出血性脳卒中3例、クモ膜下出血2例、その他の心血管事故6例（型不明の

表1 検診の実績

	新規	繰返し	計
2002年	503	0	503
2003年	554	0	554
(JALS コホート n = 1057)			
2004年	75	100	175
2005年	0	348	348
2006年	220	150	370
2007年	80	151	231
	1432	749	2181

表2 年毎の心血管事故数（登録例）

	心筋梗塞	虚血性 脳卒中	出血性 脳卒中	くも膜下 出血	その他
2003年	0	3	0	0	0
2004年	0	4	1	0	1
2005年	1	5	2	0	3
2006年	1	1	0	0	0
2007年	2	0	0	2	2
計	4	13	3	2	6

脳卒中2例、冠動脈カテーテル治療1例、大動脈瘤2例、弁膜症手術1例)を確認した。また、死亡と異動に関しては当該自治体から年度毎に情報を得ている。最新の資料(2008年2月)ではコホート内の死亡47例(内5例は心血管事故後の死亡)、異動9名であった。

#### 今後の課題

自治体の合併により、当該地域の保健師数が削減され、追加検診などで研究の補助などが期待し難くなった。しかし、従来通り異動情報や死亡に関しては自治体から情報をうけることが出来ている。また、脳卒中の罹患者数が心筋梗塞の4.5倍であった。突然死例(医療機関で発症登録不能例)の中に心筋梗塞発症例が含まれていることが推定される。早急に死亡小票の閲覧が可能となることを期待したい。